

## 令和 5 年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生活動支援事業活動報告書

団体等名	信州の食でツクル未来プロジェクト	
代表学生	所属大学名・学部・学年	信州大学農学部生命機能科学コース 3 年
	ふりがな 氏名	すぎやま なごみ 杉山 和
教職員責任者	所属大学名・職名・ ふりがな 氏名	信州大学 キャリア教育・サポートセンター講師 かつまた たつお 勝亦 達夫

活動名	信州の食でツクル未来プロジェクト
実施時期	令和 4 年度、令和 5 年度
実施場所	長野県全域
活動内容	<p>信州の食に注目し、現代社会の食についての学生活動によって解決することを目的に活動を行った。</p> <p>令和 4 年 2 月 26, 27 日の「伊那・長野若者会議」において、「報われないうりんごを救え！～間引きりんごのシンデレラストーリー～」をテーマに、摘果りんごの活用について議論を行った。ここで抽出された意見を実現するための活動を令和 4, 5 年度に行った。この活動における課題は、以下の通りである。</p> <p>長野県の特産品について調査したところ、廃棄りんごには利用価値があり、ほとんどがジュース、ジャムになって新しい価値を生み出していた。しかし、摘果りんごについては活用先がないことに気付いた。摘果とは、美味しいりんごを作るために必要な工程のことである。一番育ちが良さそうな実を残して、間引くことによって、一つの果実に栄養や糖分を集まるようにする。この際に間引かれ捨てられるりんごのことを摘果りんごと言う。りんごの木になる果実のうち 90%は摘果されてしまう。長野県のりんご作付面積 7200ha から計算すると、推定 29690t の摘果りんごが廃棄されていることとなる。</p> <p>この課題を解決すべく会議でのアイデアを元に実際に摘果りんごを用いた商品を開発することを目標に活動を行う。また、長野県の特産品であるりんごを用いて、より長野のりんごの良さや食品ロスの削減意識を広めていくことを目指す。</p> <p>昨年度の活動では、実際に摘果りんごを用いた商品を販売しているマツザワホールディングス、株式会社高見澤の 2 社に協力をいただき、商品開発に向けてそのプロセスについて学んだ。</p> <p>今年度は摘果りんごをより知ってもらうためのイベント開催および文化祭での露店の営業を行った。また、商品化に向けてディスカッションを行い、摘果りんごを用いた和紙の作製の計画を行う予定である。</p>
活動の成果と今後の課題	<p>今年度は摘果りんごについて知ってもらうための活動を中心に行った。各月の具体的な活動内容は以下の通りである。</p> <p>&lt;今年度の活動&gt;</p> <p>4 月 定例ミーティング@松本キャンパス</p> <p>5 月 定例ミーティング@伊那キャンパス</p> <p>6 月 イベント準備</p> <p>7 月 取材・イベント準備 摘果林檎風呂@松本市 菊の湯</p> <p>8 月 摘果林檎についてディスカッション @上田キャンパス</p> <p>9 月 落葉松祭に向けて試作</p>

10月 落葉松祭出店@伊那キャンパス  
 12月 ディスカッション@伊那谷 sees  
 1月 りんごオープンチャット作成  
 2月 企業とディスカッション@長野市

4, 5, 6月の準備期間を経て、今年度は自主開催イベントとして、松本市の銭湯、菊の湯で摘果林檎を用いたお風呂を実現した。



今までのディスカッションの一案を実現できた。

実際に開催したことで効果をうたうのが難しい、結局ごみが出てしまうというという点で宣伝という役割でしか使えないという結論に至った。

摘果林檎の成分による皮膚の再生効果については7月に信州大学農学部の田中佐智先生の研究室に訪問し、お話を聞いたところ、細胞への添加により再生効果があることは実証されているが、お風呂での効果は謳えるほどは研究は進んでいないというのが現状であった。

実際、香りや美肌効果は感じられなかったためイベント利止まりとなった。

また、イベントの中で、摘果りんごの知名度は意外と高いことがわかった。

摘果りんご風呂については信濃毎日新聞でとりあげていただいた。

八月には農業関連の研究を個人でされている田中利幸さんと信州大学繊維学部にてディスカッションを行った。田中さんは摘果りんごの錆とりとしての商品化を模索している。このディスカッションにより摘果りんごの工業的利用の模索について考えることとなった。

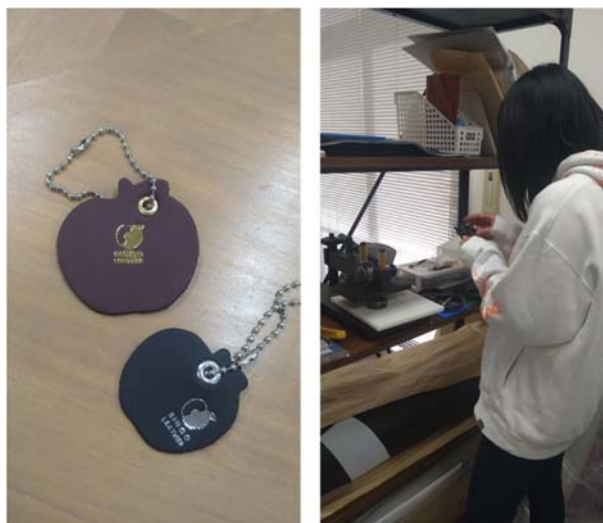
イベントとして落葉松祭で屋台を出店した。株式会社高見澤からいただいている摘果林檎パウダーを使ったクレープを販売した。学生団体で初となる利益を算出することができた。

落葉松祭を経て、イベントではなく形にする段階に進むこととなった。

メンバーの紹介のもと、会社の畑でできたりんごの活用方法を考えているという信州大学客員研究員の廣畑さんとディスカッションを行った。

地域コミュニティセンター伊那谷 seesにて無駄のないりんごの生産サイクル「アップルサイクル」を実現するために何が必要であるかを考えた。摘果りんご以外にも剪定の際にでた枝や花や廃棄りんごについても考えた。

このディスカッションの中で出たりんごレザーを作成している株式会社 SORENA とディスカッションを行い、飯山市の内山和紙の工房である阿部工房に協力いただき、摘果りんごを用いた和紙を作成することとなった。



来年度はこの摘果りんご和紙の製品化、事業化に向けて活動していく予定である。

※記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

※活動内容が分かる資料や写真等があれば、添付してください。添付書類を含む活動報告書一式は、A4判4枚以内にまとめてください。活動内容だけでなく、活動団体のPRを行うことができる動画を添付することも可能です。

※提出された活動報告書一式は、各関係機関等に公表するとともに、高等教育コンソーシアム信州のHPへの掲載を予定しています。他人が写った写真等を許可なく使用しないなど、著作権や肖像権に配慮してください。

※申請内容から変更があった場合は、経緯を記入してください。

※本様式のほか、活動内容や成果についての報告動画を併せて作成して提出してください。